

2024年11月24日

北九州市長 武内 和久 殿

九州考古学会
会長 宮本 一夫

旧門司駅関連施設遺構の保存に関する会長声明について

九州考古学会では、2024年11月24日付で会長声明「旧門司駅関連施設遺構の保存に対する北九州市長の対応について」を発出いたしましたのでお知らせいたします。詳細については下記添付書類を御覧ください。

記

1. 会長声明
別添の通り 1通

旧門司駅関連施設遺構の保存に対する北九州市長の対応について

旧門司駅関連施設遺構の保存につきましては、九州考古学会からこれまで2月5日付・3月14日付で九州考古学会から要望書を提出いたしました。また5月21日付で九州考古学会も含めた11学会から合同要望書が提出されました。さらに、9月4日にはICOMOSからヘリテージ・アラートが提出され、9月6日付で、ヘリテージ・アラートを支持し遵守されるよう要望したところです。その中、8月26日から11月13日まで、記録保存による遺構の破壊を前提とした追加の発掘調査が行われ、終了後に複合公共施設の造成工事に向けた準備が着手されました。

その後、11月21日には市長により一部現地にて「存置」および一部移築保存の方針が示されました。しかし、今回現地にて「存置」および移築保存の対象とされた箇所は、文化財の専門家などによって重要とされた場所ではなく、1月25日に移築保存の方針が示された箇所とも異なるなど、根拠が明確ではありません。現状では、本来現地にて保存されるべき大半の遺構が記録保存の名の下に解体・破壊されることとなります。

九州考古学会は、旧門司駅関連施設遺構が有している文化財としての重要性と現地での全面保存の必要性が関係当事者に十二分に理解されなかった結果と受け止めるとともに、このような対応となったことについて重ねて「遺憾」の意を表明いたします。

その上で、九州考古学会は、下記の点について要望いたします。

記

1. 旧門司駅関連施設遺構のうち、特に重要な価値を有する駅舎本体・機関車庫を含めた箇所について、有識者等の知見をふまえ、遺跡の価値に応じてより広く現地保存や移築保存が為されること。
2. 旧門司駅関連施設遺構の今後の保存・公開に際しては、映像資料などによる復元も含め、遺跡そのものの価値を抬げることを目指しながら広く市民に対して公開・共有すること。
3. 初代および二代目門司駅に関連する区域を広く埋蔵文化財包蔵地として保護し、史跡として活用していくこと。

以上

2024年11月24日

九州考古学会
会長 宮本 一夫